

令和7年4月23日

令和7年度 バドミントン 部の指導方針等と実績について

1 指導体制

顧問氏名		外部指導員氏名	資格等や経験
主顧問	岡崎 寛	大森 吏紗	バドミントン経験者
主顧問	佐々木 崇光		
副顧問	末次 桜子		
副顧問	増田 智恵美		

2 年間目標

(1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像	規範意識を培い自主・自律の力を育てることを方針とする本校において、高い目的意識と自ら実践する強い行動力をもって目標に達成すべく日々努力を重ねる。 部の目的は、応援される部員となれるように日々の生活から自らを律することができる。
(2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標	各部員が技術向上の目標を明確にもち、個人戦、団体戦ともに都予選会の上位入賞(3回戦突破、ベスト64位)を目指して日々の練習に取り組む。
(3) 地域貢献等の特色ある目標	秋に本校で行う部活動公開週間で、本校入学希望する中学生を対象に体験入部の機会を設ける。 審判講習会に参加し、大会等で審判が適切に行えるようにする。

3 指導方針

(1) 技術や技能, 体力の向上	練習日は原則週に4日間とし、練習時間は平日2時間、休日3時間を基本とし、モチベーションを高くもち、短時間に集中して行う。また、自主練習として、素振りやフットワーク、縄跳びなどを実施する。
(2) 公式戦や発表会への積極的な参加	高体連バドミントン専門部主催の大会のほか、2月の国公立大会に参加する。
(3) 他校との合同練習、練習試合、校外活動の設定	生徒の意欲や技術、時期等をみて他校との練習試合を年数回以上設定する。
(4) 部加入率の維持、増加	出席簿による確実な部員管理、練習後のミーティング、部長やマネージャーなどとのこまめな情報交換、必要に応じた部員との面談等おこなう。月・木・土の体育館練習は、全員参加を原則とする。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導	スポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインを活用して、部内で、体罰・暴言等のな
-----------------	---

	い指導について共通理解を図る。
(2)生徒間の暴力禁止	運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で肉体的、精神的な強制力で問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。
(3)外部指導員の活用	全体指導を補助し、活動の充実を図る。
(4)事故防止・安全配慮	生徒の心身の発育・発達や体力・技術と練習内容および場所を適切に把握して計画を立てる。

5 主な年間計画

	月	内 容
1 学 期	4	生徒会クラブ紹介、一斉入部会・春季大会兼関東大会都予選大会(団体)
	5	インターハイ東京都予選(個人)
	6	インターハイ東京都予選(団体)
	7	夏季休業中 練習及び練習試合
	8	新人戦Ⅰ部大会(個人・複)
2 学 期	9	
	10	新人戦Ⅰ部大会(個人・単)
	11	新人戦大会(団体)
	12	冬季休業中 練習及び練習試合
3 学 期	1	冬季ブロック大会(団体)
	2	東京都国公立高等学校大会(団体)
	3	新人戦Ⅱ部大会(個人)・春季休業中 練習及び練習試合、三送会

6 活動日・活動場所

曜日	月	火	水	木	金	土	日
活動場所	体育館		(外練)	体育館		体育館	

7 公式戦・大会等の実績

〈令和6年度〉
春季大会兼関東大会都予選大会(団体) 男子2回戦敗退 女子2回戦敗退
インターハイ東京都予選(団体) 男子1回戦敗退 女子3回戦敗退
新人戦大会(団体) 男子2回戦敗退 女子2回戦敗退
冬季ブロック大会(団体) 男子予選敗退 女子予選敗退
東京都国公立高等学校大会(団体) 男子予選敗退 女子予選敗退